

主催:日本学術会議農学会委員会農学分科会  
共催:(一社)日本作物学会、(一社)園芸学会  
後援:日本農学アカデミー

近年、日本では気候変動に伴う激甚な気象災害が農業の持続可能性に深刻な影響を及ぼしている。政府は2050年の炭素中立を掲げ、農業分野にも緩和策の強化を求めており、従来は適応策中心で緩和策は不十分であった。農業はメタンや亜酸化窒素など強力な温室効果ガスを広域的に排出する特性を有する。このような農業特有の状況を踏まえ、本シンポジウムは、生産農学の視点から緩和策に焦点を当て、食料安定供給と環境負荷低減を両立する技術への転換を促すことを目的とする。



<https://forms.gle/rLz4mjAK1DZAVha4A>

日時:2026年3月28日(土)14:30 ~ 17:00

場所:高崎健康福祉大学(群馬県高崎市中大類町)

3号館101講義室&オンライン(一般参加歓迎)

対面・オンラインとも、参加申し込みは右上のQRコードから

# 日本学術会議公開シンポジウム 気候変動を食い止める農業生産技術 —今、我々に何ができるか—

プログラム:

◇総合司会 彦坂 晶子(日本学術会議連携会員/千葉大学大学院園芸学研究院教授)

シンポジウムの開催にあたって(主催者代表挨拶)

土井 元章(日本学術会議第二部会員/京都大学名誉教授)

『農業生産の持続可能性の課題と気候変動』

本間 香貴(日本学術会議連携会員/東北大学大学院農学研究科教授)

『水田における窒素および炭素動態とその制御

—カバークロップや不耕起を利用したメタン排出量削減—』

浅木 直美(愛媛大学大学院農学研究科准教授)

『環境変化と土壤・根圈微生物相互作用』

竹下 典男(筑波大学生命環境系准教授)

『気候変動に伴う野菜生産の作型適応』

山崎 篤(高崎健康福祉大学農学部教授)

『農業生産におけるカーボンクレジット』

西田 智子(日本学術会議連携会員/(国研)農研機構理事)

シンポジウム総括 下野 裕之(日本学術会議連携会員/岩手大学農学部教授)

お問い合わせ:2026nougaku.sympo@gmail.com